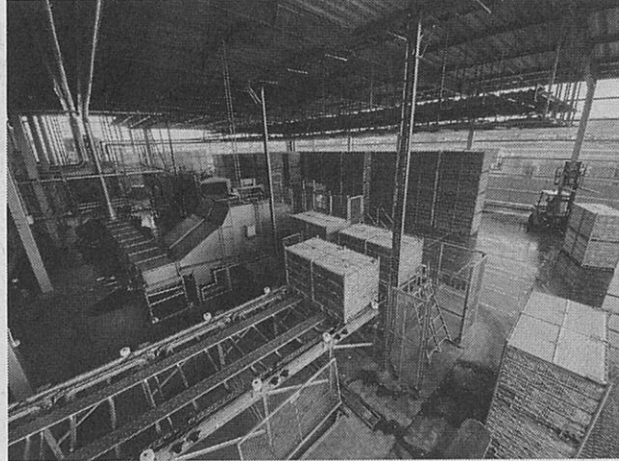


「GP生鳥取扱システム」納入開始

顧客に合わせたカスタマイズが可能

兵庫県のマレルジャパ
ン(本社・兵庫県明石
市、ベイカー・カスバ
代表取締役社長)では、
2020年より国内でG
P生鳥取り扱いシステム
の販売を開始した。
2020年9月から、
江夏商事(株)グループの宮
崎サンフーズ(本社・
宮崎県児湯郡新富町、岩
分野において)マーケッ
ト



システム稼働中の宮崎サンフーズ

作業効率化と家畜福祉を両立へ

◇
それでは、このシステ
ムの仕組みについて、教
えてください。
ベイカー・カスバ代表
取締役(以下「ベイカー」)は、養鶏場から工
場の処理ラインへ搬送す
るためのモジュール式シ
ステムです。基幹となる
ものは鶏を搬送するコン
テナと工場でのコンテナ
から鶏をスムーズに送り
出す傾斜装置、コンテナ
洗浄機となっています。

作業効率化と家畜福祉を両立へ

◇
ロアがスライド式で鶏を
入れやすく、カゴに比べ
て多くの鶏を積むことが
できます。また、コンテ
ナはフォークリフトで移
動させるためスタッフの
身体的負担を大幅に軽減
することができ、少数人
で作業を終えることが可
能です。
瓦田純セルスマネー
ジャー(以下「瓦田」)「当
システムを日本に導入す
るにあたり、日本のトラ
ックの規格に合ったコン
テナを提案しました。海
外のものに比べると25
0mmほど小さく、幅2
60mmとなっています。
また、欧州などでは、
自動捕鳥システムを併せ
て利用しているところも
多く、ゆくゆくはそちら
も組み込むことによっ
て、更なる効率化を図る
こともできます。お客様
のニーズに合わせて、さ
まざまなオプションを追
加したり減らしたりでき
る柔軟性も当システムの
特徴です」
現在、宮崎サンフーズ

作業効率化と家畜福祉を両立へ

◇
ベイカー「洗浄から消
毒まで行いますが、洗浄
に使用した水は回収して
再利用されます。環境に
配慮しています」
「ありがとうございま
す。ここまでは効率化や
スタッフの負担軽減とい
ったメリットについて伺
ってききましたが、他に御
社が注力している機能な
どがありましたら、お聞
かせください」
ベイカー「養鶏場から
の移送、そして懸鳥処
理ラインに乗せるまでの
間の、鶏が傷つくリスクや
ストレスを軽減できるシ
ステムになっています」
「歩留まりと品質を守るこ
とはもちろん、家畜福
祉、動物愛護の観点から
もスムーズな移送は必須
だからです。これは当社
が開発時から最も大切に
している視点です」
Marier社は世界で
トップシェアを持ってい
ますが、他社との大きな
違いの一つに開発予算を
潤沢に組んでいることが
あります。作業の効率化
はもちろんです。近年
日本でも話題に上がって
いる家畜福祉において
も、欧州各国が設けてい
る法律や基準よりも厳し
く設定し、開発に取り組
んでいます。動物愛護を
重視することは結果とし
て歩留まりや品質の確保
に繋がりますし、日本で
コンテナが迅速に対応す
ることができません。本
社に「ありがとうございま
す」



GPコンテナに収納

「技術交流ウェビナー」開催

(株)日本チャンキーマ

飼料要求率改善対策などテーマに

(株)日本チャンキーマは、
定期「ウェビナー」をW
EB会議ツール「ZOO
M」のオンライン形式で
開催した。
定期ウェビナーは11月
から毎週開催されてお
り、2月10日、2月17
日は2週にわたってプロイ
ラーの発育をテーマに講
演が行われた。
2月10日のウェビナー

は、同社の相場政人氏が
登壇し、プロイラーの飼
料要求率改善対策をテ
マに講演した。
飼料要求率(FCR)
とは、1kgの鶏肉を作る
のにどれだけの飼料が
必要かという数値。飼料
は生産コストの6〜7割
を占めるため、FCRの
改善は農場にとって重要
な課題となっている。

相場氏はまずFCRの
重要性を説明し、チャン
キー種の改良により20
15年から2019年ま
での5年間で0.115
pt(年間0.03pt)
改善していることを解
説。そして、「性能の良
いチャンキーマ種が、よ
り効果的に栄養を吸収し、
発育するためには育雛期
の飼料摂取がとて重要

である」と話した。ま
た、飼料の消化吸収に重
要な腸管は育雛期に著し
く発達するため、この期
間しっかりと飼料を食
べ、7日齢体重が良いひ
な鳥は生涯FCRが良い
との見解が示された。
相場氏は孵化後72時間
以内の食餌が重要と述
べ、効果的な餌の与え方
や併せて水を飲ませるこ
との重要性、温度管理や
光照度の調節についても
詳しく解説した。
このほか、水も栄養素
の一つとした上で、増
体の原因となる感染

症のリスクを減らすため
にも「鶏舎の衛生管理に
留意し、水の品質管理を
しっかりと行うことが大切
である」と述べた。
2月17日のウェビナー
では、同社の太田修二が
「腸の健康」をテーマに
講演。前週のウェビナー
で語られた内容を深くつ
ながりがある腸につい
て、さらに詳しく解説し
た。
太田氏はまず、プロイ
ラーの品種改良により出
荷日齢の短縮が進んでい
ることと飼料相場の上昇
を挙げ、より効果的な増
体のためには鶏舎のチェ

環境を整えることが大切
である」と述べた。
「腸の健康」をテーマに
講演。前週のウェビナー
で語られた内容を深くつ
ながりがある腸につい
て、さらに詳しく解説し
た。
太田氏はまず、プロイ
ラーの品種改良により出
荷日齢の短縮が進んでい
ることと飼料相場の上昇
を挙げ、より効果的な増
体のためには鶏舎のチェ

環境を整えることが大切
である」と述べた。
「腸の健康」をテーマに
講演。前週のウェビナー
で語られた内容を深くつ
ながりがある腸につい
て、さらに詳しく解説し
た。
太田氏はまず、プロイ
ラーの品種改良により出
荷日齢の短縮が進んでい
ることと飼料相場の上昇
を挙げ、より効果的な増
体のためには鶏舎のチェ

環境を整えることが大切
である」と述べた。
「腸の健康」をテーマに
講演。前週のウェビナー
で語られた内容を深くつ
ながりがある腸につい
て、さらに詳しく解説し
た。
太田氏はまず、プロイ
ラーの品種改良により出
荷日齢の短縮が進んでい
ることと飼料相場の上昇
を挙げ、より効果的な増
体のためには鶏舎のチェ

環境を整えることが大切
である」と述べた。
「腸の健康」をテーマに
講演。前週のウェビナー
で語られた内容を深くつ
ながりがある腸につい
て、さらに詳しく解説し
た。
太田氏はまず、プロイ
ラーの品種改良により出
荷日齢の短縮が進んでい
ることと飼料相場の上昇
を挙げ、より効果的な増
体のためには鶏舎のチェ

米国の畜産物需給予測 20、21年家きん生産 上方修正わずか

米国農務省が9日発表
した畜産需給予測によ
ると、米国の20年ならび
に21年のプロイラー生産
量は前月時点の予測より
わずかに上方修正された
ものの、前年比では前回予
測と変化はみられない。
ターキーについては飼料
価格の高騰の影響もあ
り、20年、21年の生産量
は下方修正された。牛
肉、豚肉については、20
年の生産は前月予測と変
わらないが21年はやや上
方修正されている。
とうもろこし生産量は
前月から据え置き
また、同時に発表され
た穀物需給予測では、20
/21年度の米国のとうも
ろこし生産は141億8
200万ブッシェル(前
年比4.1%増)と、前
月時点予測をそのまま据
え置いた。
需要面では、輸出需要
が中国向けの堅調な需要
を背景に、5千万ブッシ
ェル増加も、その他は変
化なしとしている。この
結果、期末在庫は需要の
増加を受け、前月から5
千万ブッシェル減少の15
億2000万ブッシェル
に上方修正された。
シルでは作付遅延の
への懸念はあるもの
価格上昇により作
付は、20/21年度の
量は面積が増加し
フリカで上方修正
体では1億3400
に上方修正された。
シルでは作付遅延の
への懸念はあるもの
価格上昇により作
付は、20/21年度の
量は面積が増加し
フリカで上方修正
体では1億3400



ニチレイフレッシュ
4月から社長に田邊氏
ニチレイは2月16日、
グループ各社の4月1日
付予定の人事異動を発表
した。本紙関連では、(株)
ニチレイフレッシュ(金
子義史代表取締役社長)
の新社長に田邊弥(たな
べわたる)が取締役執行役
員経営企画部長が4月1
日付で就任する。金子義
史社長は代表権のない取
締役会長となる。
田邊氏は、1969
年7月26日生まれ、
県出身。92年に明治
農学部卒業、同年イ
ニチレイ入社、20
年4月(株)ニチレイ
シユ畜産事業部第
一リーダー、19年
役員経営企画部長
4月取締役執行役員
企画部長、21年4月
取締役社長就任予

	19年	20年	(前月予測)	前年比%	21年	前年比%
生産量	19,702.0	20,002.3	19,991.4	101.5	20,139.7	100.7
輸入量	59.4	65.8	65.8	110.7	63.5	96.6
総供給量	20,144.7	20,492.6	20,482.2	101.7	20,579.7	100.4
消費量	16,497.8	16,772.7	16,747.3	101.7	16,826.2	100.3
輸出品	3,221.9	3,343.5	3,356.2	103.8	3,352.1	100.3
期末在庫量	425.0	376.5	378.8	88.6	401.4	106.6
生産量	2,639.0	2,605.0	2,590.9	98.7	2,596.8	99.7
輸入量	5.4	9.5	9.5	175.0	9.5	100.0
総供給量	2,781.9	2,720.2	2,706.2	97.8	2,708.4	99.6
消費量	2,386.4	2,359.2	2,344.2	98.9	2,343.3	99.3
輸出品	289.8	259.5	259.9	89.5	260.8	100.5
期末在庫量	105.7	101.6	102.1	96.1	104.3	102.7
生産量	12,348.7	12,347.4	12,350.1	100.0	12,523.4	101.4
輸入量	1,387.1	1,516.4	1,530.9	109.3	1,363.1	89.9
総供給量	14,036.1	14,154.9	14,172.2	100.8	14,668.4	103.6
消費量	12,372.3	12,490.7	12,527.9	101.0	12,488.4	100.0
輸出品	1,372.6	1,340.8	1,331.3	97.7	1,426.6	106.4
期末在庫量	291.2	323.4	313.0	111.1	294.8	91.2
生産量	12,542.9	12,843.1	12,841.3	102.4	13,029.1	101.4
輸入量	428.6	410.1	413.7	95.7	428.6	104.5
総供給量	13,225.1	13,546.7	13,548.5	102.4	13,665.5	100.9
消費量	10,064.4	10,035.8	10,022.2	99.7	10,170.6	101.3
輸出品	2,867.2	3,303.1	3,317.6	115.2	3,254.6	98.5
期末在庫量	293.0	207.7	208.7	70.9	240.4	115.7

	2018/19	2019/20推定	2020/21予測		前年度比
			1月予測	2月予測	
作付面積	88.9	89.7	90.8	90.8	101.2
収穫面積	81.3	81.3	82.5	82.5	101.5
ブッシェル					
1エーカー当たり単収	176.4	167.5	172.0	172.0	102.7
百万ブッシェル					
期首在庫	2,140	2,221	1,919	1,919	86.4
生産量	14,340	13,620	14,182	14,182	104.1
輸入量	28	42	25	25	59.5
総供給量	16,509	15,883	16,127	16,127	101.5
飼料用など	5,429	5,903	5,650	5,650	95.7
食用、種子用、工業用	6,793	6,282	6,375	6,375	101.5
エタノール、副産物	5,378	4,852	4,950	4,950	102.0
国内消費合計	12,222	12,185	12,025	12,025	98.7
輸出品	2,066	1,778	2,550	2,600	146.2
消費合計	14,288	13,963	14,575	14,625	104.7